

会員の皆様におかれましては、益々御健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、平成17年度第2回学術研究集会在、平成18年3月4日(土)に名古屋芸術大学東キャンパス(愛知県北名古屋市)で開催されましたので、概要を御報告申し上げます。

### 講演

#### 「世界の体操～海外における体操の現状～」

荒木達雄(日本体育大学)

世界の体操の現状について、ヨーロッパはもとより、アジア体操祭や日本も含めたアジア・オセアニア地域などの体操について体操祭を中心とした現状報告と今後の世界の体操祭の開催予定について豊富な映像資料とともに紹介と案内があった。なお、2006年度は、以下のような体操祭が予定されている。また、2007年に開催されるワールドジムナエストラダ(世界体操祭)への日本のエントリーチームは、現在19団体、600名ほどが参加予定であると報告があった。

- ・ フィンランド体操祭：6月8日～11日
- ・ デンマーク体操祭：6月29日～7月2日
- ・ FIG 125周年ガラ：9月21日(上越市直江津)
- ・ オージー体操祭：9月29日  
(FIGガラ・イン・オセアニア)



### 実技

#### 「体操 ～音と動きの関わり～」

後藤洋子(三重大学)

第6回大会のプレイベントとして大会テーマの一部に添った、全身を使った様々な動きの発展と打楽器を用いた体操が提案された。前半は移動運動を中心に、テンポの変化による運動の変化を体験し、後半はタンバリンを利用して、自ら音を発することにより動きのタイミングやパートナーとの協調をねらった体操が実施された。特にタンバリンを用いた体操は、一人から二人組への発展の中で、互いに音を鳴らしながら交流し、繰り返し動き続ける楽しさがあり、参加者の笑顔が終止絶えなかった。次回大会への期待とともに、全員で汗を流す体験を共有でき、有意義な時間を過ごすことができた。



### その他

同集会上に先立ち、日本体操学会第6回大会の組織委員会(第1回)が開催された。

(文責：第6回大会組織委員長 後藤洋子、事務局長 大島林子)